

港区立芝小学校
令和6年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う力 ・日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力及び、思考力や想像力 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に正対して自分の考えを人に伝わるようにまとめること。 ・相手の話を最後まで聞き、理解する力、受け止める態度の育成。 ・筋道立てて考える力や言葉を通して、登場人物の気持ちを想像したり筆者の主張を理解したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な言語活動を通して、主体的に取り組めるよう問題意識、相手意識をもった課題解決学習を行う。 ・図書館司書と連携し、関連図書の準備と並行読書の推進、読み聞かせや読書の充実を図る。 ・授業の中で、ペア学習やグループ学習をしたり、自分の考えや相手の考えを共有する時間を意図的に設けたりする。

社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる力 ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を「自分事」として捉え、これからの自分の生活に生かそうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学習問題をとって、見通しをもって解決しようとする。 ・社会科の学習を自分事として捉え、自らの生活に生かしたりこれからの社会の発展に貢献しようとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や副読本、地図帳、図書資料等を活用して主体的に課題解決する場面を計画的に位置付ける。 ・社会的事象について学んだ上で、自分たちはどうすればよいのか、これから何が大切なのか、など、児童が「自分事」として考えるきっかけとなる問いを教師が意図的に発する。

算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道立てて考察する力 ・統合的・発展的に考察する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項をもとに筋道立てて考えたり説明したりすること。(校内研究の授業観察より) ・問題の条件に沿って抜け落ちなく筋道立てて考えを説明すること。(全国学力・学習状況調査より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の意味理解を図る学習や図形の性質を活用して作図する学習などを行い、その過程で活用した既習事項を振り返り価値付けるような授業を行っていく。 ・答えを出して終わりにするのではなく、なぜ、その答えに至ったのかを振り返らせ、問題の条件と照らし合わせながらその答えや解決方法が妥当なのかを判断させる授業を行っていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能 ・観察、実験などを行い、見方・考え方を働かせた問題解決の力 ・自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対して必要な実験器具や実験方法を考えるなどの問題解決学習の経験が少ない。 ・学習課題に対して、自分の予想を理由や根拠をもって説明すること。 ・自然の事物・現象についての理解や観察、実験などに関する基本的な技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対して、理科の見方・考え方を働かせながら予想をし、個人やグループで必要な実験器具や実験方法を考えていく。実験後には実験方法が正しかったのか、実験結果は得られたいものだったのかなどを話し合い、問題解決の力を身に付けていく。 ・自然の事物・現象についてのイメージと、既習の内容や生活経験、実験、観察、映像資料などで調べた結果から導き出した結論とを意味付けたり関連付けたりする活動を意図的・計画的に行っていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験、他学年や地域の人との交流を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにする資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然との関わりや生活体験が少ない。 ・自分と地域との関わりに気付いている児童が少ない。 ・気付いたことを表現して伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「聞いて・助けて・任せて・見守る」姿勢をもち、児童の思いや願いを基にした授業づくりを行う。 ・校庭や公園等の自然に親しんだり、季節ごとの変化を感じたりできるような指導計画を立て、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に児童自ら気付けるようにする。 ・試行錯誤して活動の楽しさや満足感、成就感などの手応えを感じられるような学習環境を整える。 ・国語科との連携を図り、観察カードの書き方を指導する。また、ICT を効果的に使えるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽的な見方・考え方を働かせながら思いや意図をもって表現を追求したり、音楽のよさを味わったりする資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図をもって表現を工夫し、さらによりよい表現を追求していく態度。 ・聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせて曲のよさについて自分の考えを言葉で表すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・即興的に表現する活動を取り入れたり、デジタルワークシートを活用したりして、様々な発想を得られるようにする。それをもとに友達とよりよい表現を追求する活動を行う。 ・音楽を表す言葉、振り返りの視点、友達の意見を参考にしながら、自分の考えを広げて、言葉で表すことができるようにする。

図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	造形的なよさや表し方などについて考え、共感的に作品などに向き合い、自分の見方や感じ方を広げる力。 (思考力、判断力、表現力)	・図工が好きという児童 97%、図工は分かる(できる)という児童 96%であるが、学習評価と比べると、実感と能力の差がある。 ・思考したことを表現に結び付けて深めること。	・思考や表現の意図や根拠を振り返り、次の表現に生かせるように、振り返りをタブレットを用いて行う。 ・自他の作品のよさに気付くことができるようにするために、制作した作品や、身近な美術作品、美術館への校外学習など、鑑賞の時間を工夫する。

家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	実践的・体験的な活動を重視した学習を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力	・実践や活動には意欲的に取り組むが、知識や技能の習得に個人差がある。 ・身に付けた知識や技能を、日常生活に生かすこと。	・身に付けさせたい資質や能力を明確にし、児童が知識や技能に価値を感じながら習得できるような学習活動の充実を図る。 ・家庭生活を大切にし、習得した知識や技能を使って日常生活の課題を解決したり、生活をよりよくしようと工夫したりする態度を養う学習活動の充実を図る。

体育	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、児童一人一人が生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	・基礎的な体力が低下していること。 ・運動に進んで取り組む児童とそうでない児童の差が大きく、二極化がみられること。 ・「3 間」(時間・空間・仲間)及び日常の遊びを通じた運動に取り組む機会のどちらも減少していること。	・全ての児童が運動や遊びにおける楽しさや喜びを味わうことができるような場の工夫や学習過程の設定をする。 ・自己の適性等に応じた「する・みる・知る・支える」の多様な関わり方を身に付けさせるために、ただ運動をするだけでなく、運動をしていく中で他者との関わりを充実させた体育授業の展開をする。 ・課題の発見とその解決に向けた学習過程を通して、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を高めていく。

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や表現に慣れ親しみ、身近で簡単な事柄について目的や状況に応じて、外国語を用いてコミュニケーションを図る能力 ・発達段階に応じて、自国や他国の伝統や文化等について学ぼうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の能力の差が、学年が上がるにつれて顕著になってくること。 ・コミュニケーションに苦手意識があったり、抵抗感があったりする児童への支援が難しいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事柄に関わる単語や表現を、多く取り入れたチャンツを使用し、楽しみながら外国語の学習や文化を知る学習を設定する。 ・NT と連携して授業内容の充実を図る。(フォニックスの書き取り・振り返りシート等) ・4技能のコミュニケーションスキルを高めるために、ICTを活用しながら会話をしたり発表したりとバランスよく学習場面を設定する。 ・学習時間に限らず、日常的に外国語活動に取り組む機会を設け(スタートカード、コミュニケーションすごろく)、自分の考えや理由を相手に話して伝えられる能力の育成を図れるように工夫する。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的判断力(それぞれの場面において善悪を判断する能力) ・道徳的実践意欲と態度(道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き、道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考え方や議論から、多面的・多角的な見方へと発展させること。 ・道徳的価値について、大切だということを頭では分かっているが、実生活の中では実践するのが難しいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習を取り入れたり、一斉による学習だけでなく、ペアや少人数グループなど、学習形態を工夫して話し合い活動に取り組んだりすることで、物事を多面的・多角的に捉えられるようにする。 ・より自分たちの生活に即した題材の工夫をしたり、登場人物になりきった役割演技などの体験的な学習を取り入れたりする。 ・道徳の授業だけではなく、ほかの場面でも、実生活で道徳的な実践ができた場合に引き上げて褒めるなど、日常的に道徳的実践力を高めていけるようにする。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や自己の生活・人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成、意思決定する力 ・様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、生活および人間関係をよりよく形成する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会等の話し合い活動の中で、建設的な話し合いをし、合意形成を図ること。 ・目的に沿った主体的な取り組みや自己実現に向けた行動力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会等の話し合いの場を、計画的に設け、適切なタイミングで指導助言を行う。話し合いの流れの可視化、思考ツールの活用で話し合いをスムーズに行える指導をする。 ・係や委員会活動、行事の取り組みにおいて、発表の場を確保する。教員側が計画的に指導に当たり、児童の自主性を尊重しつつ、よりよい学級や学校のために自分ができることという視点で自己実現できる活動の支援をする。活動グループを縦割り、少人数にしてやりたいことによって活動内容を分けたり、役割分担をしたりする。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の過程における、課題の解決に必要な知識・技能 ・実社会や実生活の中で自ら問いを見だし、課題を立て、情報を集め、整理・分析した上でまとめ、表現する力 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学年の発達段階における児童の実態を踏まえ、地域の実情を考慮した上で、児童が心から主体的に追究したいと思えるようなテーマを設定すること。 ・課題を自分事として捉え、解決に向けて主体的に取り組むこと。 ・学習の成果を社会参画につなげること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」の意義や取り組み方について学年の最初に指導し、自分たちで学びを創ることができることに対して児童が期待をもてるようにする。 ・児童が主体的にPDCAサイクルを回しながら学習を進めていくことができるようにするために、学習の手引を作成・活用する。 ・近隣施設の活用、地域の方へのインタビュー、区役所の方への協力要請など、身近な地域社会との接点を学習計画の中に意図的に盛り込み、社会参画に向けての児童の意欲を高められるようにする。